



文書No. KEM0711-24

認証・登録番号 0003714

エコアクション21

環境経営レポート

2024

Environmental Management Report



活動期間：2024年4月～2025年3月

2025年7月7日 発行

ケーピー株式会社



はじめに

当社は、2009年6月5日にエコアクション21の認証登録し、環境経営活動を継続しています。

2024年度の活動状況を下記項目にまとめ報告いたします。

目 次	ページ
1. 組織の概要	1
2. 対象範囲	1
3. 環境経営方針	2～3
4. 環境経営システム組織図	4
5. 環境経営目標	5
6. 環境経営計画	6
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績とその評価 次年度の取組み	7～10
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに 違反、訴訟の有無	11
9. 水質汚濁防止法の垂鉛対策	12
10. 代表者による全体評価と見直し結果	13
11. ケーピーの環境活動	14～15
「地域貢献」の状況	16
SDGsへの取組み	17

1. 組織の概要

項 目	内 容
事業所名	ケーピー株式会社 TEL:0855-32-4477
代表者名	代表取締役社長 杉本 勝則
所在地	島根県浜田市三隅町三隅250番地
環境保全関係の責任者及び連絡先	責任者:工場長 清谷 元一
事業内容	輸送用機械器具製造業 (金属プレス加工・金属表面処理加工・バネ加工・樹脂成型加工)
事業の規模	・年間出荷額 1,380 百万円/2024 年度実績 ・従業員数 50 名/2025 年 5 月 1 日現在 ・会社設立年月 1975 年 10 月 (株)今井 ・工場設立年月 2006 年 6 月 (株)今井 島根工場 ・工場延床面積 4,581 m ² ・社名変更 2008 年 9 月 ケーピー(株)へ

2. 対象範囲

1) 認証・登録範囲

輸送用機械器具製造

(金属プレス・金属表面処理・バネ・樹脂成形加工)

2) 環境活動レポートの対象期間及び発行日

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日

3) 発行日：2025年7月7日



3. 環境経営方針

基本方針「経営理念」

価値のある企業をつくる

変わり続ける

- ・ お客様の変化に先手に対応し、変わり続ける。

使いやすい部品を供給する

- ・ 部品に信用・信頼・心を込めて、お客様にお届けする。

人を幸せにする

- ・ 働く人々を幸せにし、お客様に貢献する。

かけがえのないメンバーが違いや存在を認め合い、思いやりをもって「一枚岩の会社」を目指していきましょう

行動指針

誠実

約束したことは大小にかかわらず誠実に実行する

時間

5分前までに集まる

正直な仕事をする。正直が最高の解決策です！

時間は命です！

片付け

使用後は使用前よりきれいに

5Sの徹底！

3. 環境経営方針

ケーピー株式会社環境経営方針

ケーピー株式会社は、地球温暖化防止が人類の共通かつ重要な問題ととらえ、取り組んでいきます。自動車部品を製作している企業として環境負荷の低減が継続的な企業活動に必須な課題であることを強く認識し、私たちは以下のように環境マネジメントに取り組んでいくことをここに宣言します。

1. 環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
2. 環境法規及び地域と取り交わした協定を順守します。
3. 次の項目を重点活動として定め、事業活動の環境負荷の低減を推進します。

- ① 電気・燃料などの温室効果ガス排出量を削減します。
- ② 産業廃棄物の排出量を削減し、分別を徹底し再資源化を推進します。
- ③ 水資源である工業用水の使用量を低減します。
- ④ 事務用品のグリーン購入を推進します。
- ⑤ 化学物質の使用量を低減します。
- ⑥ 製品の原材料の省資源を推進します。

4. 本方針を全従業員に周知徹底します。
5. 本方針は環境活動レポート等により、公開します。

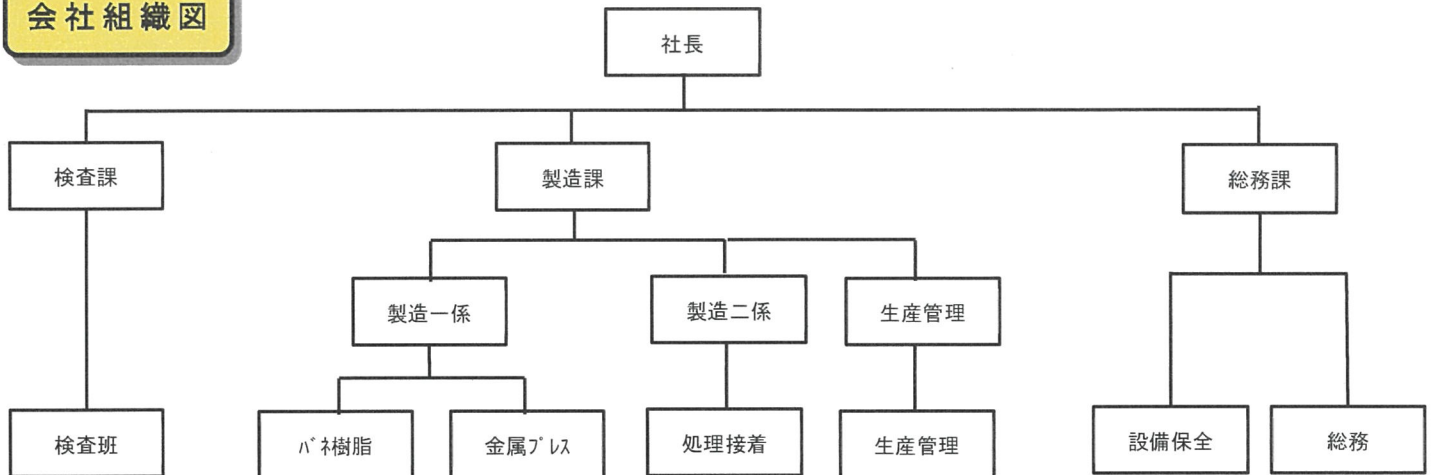
2022年7月1日

ケーピー株式会社

代表取締役社長 杉本 勝則

4. 環境経営システム組織図

会社組織図



環境経営組織図

更新日：2022年7月1日

	役割・責任・権限
代表者 (取締役社長)	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営システムの実施及び管理に必要な人、設備、費用、時間、技能技術者を用意 - 環境管理責任者を任命 - 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 - 代表者による全体の評価と見直しを実施 - 環境経営レポートの承認
環境管理責任者 (工場長)	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 法規制等の要求事項登録簿を承認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境目標の設定を承認 - 環境経営レポートの確認 - 環境活動実施計画書を承認
環境事務局	- 環境管理責任者、E A 2 1 推進会議の事務局 - 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 「環境関連法規等チェックリスト」の作成 - 環境目標・環境活動実施計画書原案の作成 - 環境活動実施計画の実績集計 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付)
部門長	- 職場における環境経営システムの実施 - 職場における環境方針の周知 - 職場の従業員に対する教育訓練の実施 - 職場に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告 - 特定された項目の手順書作成及び運用管理 - 職場の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録 - 職場の問題点の発見、是正、予防処置
全従業員	- 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 - 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加 - 環境負荷物質の計量と記録 - 省エネ、省資源施策への参画

5. 環境経営目標

環境 キーワード	環境目標項目	単位	排出実績	単年度目標	中期目標	
			2018 年	2024 年	2025 年	2026 年
			基準年度	基準比	基準比	基準比
				+5～-21%	+4～24%	+3～25%
二酸化炭素 排出量	電力の削減	kWh	1,524,288	1,268,968	1,256,278	1,243,589
	LPガスの削減	kg	163,490	125,590	124,334	123,078
	電力のCO2削減 注)1	t-CO2	797.2	663.7	657.0	650.4
	LPガスのCO2削減 注)2	t-CO2	490.8	377.0	373.2	369.5
一般・産業 廃棄物排出量	産廃（廃油・汚泥）の削減	kg	90,000	77,678	76,901	76,124
	産廃（廃プラ）の削減	kg	1,234	1,216 維持活動	1,216 維持活動	1,216 維持活動
	コピー用紙の削減	枚	110,000	87,000	86,500	86,000
排水量	排水量削減	m3	31,691	33,359	33,025	32,692
化学物質	化学物質削減	kg	866	866 監視項目	866 監視項目	866 監視項目
グリーン購入	グリーン購入品比率の増加	%	43 (2010年)	推進活動	推進活動	推進活動
製品の原材料の 省資源	工程不良率を把握し削減活動を展開する	—	品質管理活動に於いて不良率を把握し削減活動展開			

※二酸化炭素排出係数

注)1 電力は嶺新出光「2020年度係数(t-CO2/kWh)0.000523」を使用し算出した。

注)2 LPガスは燃焼時発熱量当りCO2排出係数0.0598(kg-C/MJ)、単位発熱量50.2MJ/kgを使用し算出した。

※基準年を2009年から2018年に変更した。

(現状に近い年度を基準として活動することで、取組み効果の見える化を図る)

※中期目標値は、単年度実績に基づき見直しを行う。

※廃プラは2011年度実績(1,216kg)を維持する。

※グリーン購入は、「グリーン購入推進活動」に変更した。

※化学物質の削減については、生産量に大きく左右される為、当社ではコントロールが難しい為、監視項目とした。(2018年度実績値866kgを監視目標値とした)

6. 環境経営計画

環境 キーワード	環境目標項目	環境経営計画（取組内容）		
		単年計画	中期計画	
		2024年度	2025年度	2026年度
二酸化 炭素 排出量	電力の削減	・休憩時の消灯を遵守する。 ・処理機未稼働時は乾燥機電源を切る。 ・スポットクーラ温度設定の遵守。 ・装置稼働前にエアリーク確認の励行。 ・従業員への節電に対する啓蒙活動。	・休憩時の消灯を遵守する。 ・処理機未稼働時は乾燥機電源を切る。 ・スポットクーラ温度設定の遵守。 ・装置稼働前にエアリーク確認の励行。 ・従業員への節電に対する啓蒙活動。	・休憩時の消灯を遵守する。 ・処理機未稼働時は乾燥機電源を切る。 ・スポットクーラ温度設定の遵守。 ・装置稼働前にエアリーク確認の励行。 ・従業員への節電に対する啓蒙活動。
	LPガスの削減 ※2018年2月に 重油からLPガス へ転換した。	・保温カバーの破損部は交換、付替えを行う。 ・設備立上時、稼働時に蒸気漏れを確認する。 ・設備稼働停止時にスチームを切る。 ・ボイラー稼働時のデータ収集を行い分析し改善に結びつける。	・保温カバーの破損部は交換、付替えを行う。 ・設備立上時、稼働時に蒸気漏れを確認する。 ・設備稼働停止時にスチームを切る。 ・ボイラー稼働時のデータ収集を行い分析し改善に結びつける。	・保温カバーの破損部は交換、付替えを行う。 ・設備立上時、稼働時に蒸気漏れを確認する。 ・設備稼働停止時にスチームを切る。 ・ボイラー稼働時のデータ収集を行い分析し改善に結びつける。
一般・産業 廃棄物 排出量	産廃（廃油・汚泥） の削減	・処理液の気化防止による排出量の削減を図る。 ・手動接着機の半自動化による接着液切れの向上を図る。	・処理液の気化防止による排出量の削減を図る。 ・手動接着機の半自動化による接着液切れの向上を図る。	・処理液の気化防止による排出量の削減を図る。 ・手動接着機の半自動化による接着液切れの向上を図る。
	産廃（廃プラ） の削減	・維持活動を継続する。	・維持活動を継続する。	・維持活動を継続する。
	コピー用紙 の削減	・不要コピー、不要プリントの禁止。 ・ミスプリントを行わない為に、プリント設定を確認する。 ・必要書類の再考。 ・使用枚数の記入による意識付け。 ・会議資料配付の禁止。（プロジェクト使用、議事録のデータ配信） ・社内配付は裏紙を使用する。 ・両面コピーを活用する。	・不要コピー、不要プリントの禁止。 ・ミスプリントを行わない為に、プリント設定を確認する。 ・必要書類の再考。 ・使用枚数の記入による意識付け。 ・会議資料配付の禁止。（プロジェクト使用、議事録のデータ配信） ・社内配付は裏紙を使用する。 ・両面コピーを活用する。	・不要コピー、不要プリントの禁止。 ・ミスプリントを行わない為に、プリント設定を確認する。 ・必要書類の再考。 ・使用枚数の記入による意識付け。 ・会議資料配付の禁止。（プロジェクト使用、議事録のデータ配信） ・社内配付は裏紙を使用する。 ・両面コピーを活用する。
排水量	排水量削減	・設定流量を守る。（日常点検で確認） ・洗浄室の作業時、水の出しっ放しを禁止する。 ・処理機、水洗、湯洗の清掃時、水の出しっ放しを禁止する。	・設定流量を守る。（日常点検で確認） ・洗浄室の作業時、水の出しっ放しを禁止する。 ・処理機、水洗、湯洗の清掃時、水の出しっ放しを禁止する。	・設定流量を守る。（日常点検で確認） ・洗浄室の作業時、水の出しっ放しを禁止する。 ・処理機、水洗、湯洗の清掃時、水の出しっ放しを禁止する。
化学物質	化学物質削減	・産廃（廃液・汚泥）の削減項目を展開する。 ・維持活動を継続する。	・産廃（廃液・汚泥）の削減項目を展開する。 ・維持活動を継続する。	・産廃（廃液・汚泥）の削減項目を展開する。 ・維持活動を継続する。
グリーン購入	グリーン購入品 比率の増加	・グリーン購入品推進活動を継続する。	・グリーン購入品推進活動を継続する。	・グリーン購入品推進活動を継続する。
製品の原材料の 省資源	工程不良率を把握し削減！活動を展開する	・品質管理活動に於いて不良率を把握し削減活動を展開する。	・品質管理活動に於いて不良率を把握し削減活動を展開する。	・品質管理活動に於いて不良率を把握し削減活動を展開する。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績とその評価、次年度の取組み

評価記号

◎・・・目標達成

△・・・あと少しで目標達成

×・・・目標未達成

7

エネルギーを効率的に
利用してグリーンに

11

省エネに
取り組む

13

気候変動に
具体的な対策を

二酸化炭素排出量

環境目標項目	単位	2018年度	2024年度		差	評価
		基準年度	目標	実績		
電力の削減	kWh	1,524,288	1,268,968	1,313,004	+44,036	×

電力の削減

年度	電力消費量 (kWh)
'18年度 (基準)	1,524,288
'19年度	1,300,000
'20年度	1,200,000
'21年度	1,300,000
'22年度	1,200,000
'23年度	1,300,000
'24年度	1,313,004

環境目標項目	単位	2018年度	2024年度		差	評価
		基準年度	目標	実績		
電力のCO2削減	t-CO2	797	664	687	+23	×

電力CO2排出量削減

年度	CO2排出量 (t-CO2)
'18年度 (基準)	797
'19年度	680
'20年度	600
'21年度	680
'22年度	620
'23年度	680
'24年度	687

環境経営計画 2024年

取組結果とその評価

次年度の取組内容 2025年度

- ・装置稼働時は電源を切る。
- ・休憩時の消灯を遵守する。
- ・処理機未使用時は乾燥機電源を切る。
- ・スポットクーラの温度設定を遵守する。
(設定値20℃以上)
- ・装置稼働前にエアリーク確認を励行する。

- ・装置稼働時に電源を切るとは定着した。
- ・休憩時の消灯については遵守されていた。
- ・処理機未使用時に乾燥機電源を切るとは定着した。
- ・スポットクーラの温度設定については真夏日、猛暑日において熱中症予防の観点から設定温度を下げた。
- ・日常業務においてエアリークチェックが定着し省エネ意識の向上が図れた。

※休日稼働のコンプレッサー使用電力をコンプレッサー設置部門の電力から差し引き、休日稼働実施部門へ加算する様、調整した。

- ◎ 装置稼働時は電源を切る。
- ◎ 休憩時の消灯を遵守する。
- ◎ 処理機未使用時は乾燥機電源を切る。
- △ スポットクーラの温度設定を遵守する。
(設定値20℃以上)
- ◎ 装置稼働前にエアリーク確認を励行する。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績とその評価、次年度の取組み

評価記号

◎・・・目標達成

△・・・あと少しで目標達成

×・・・目標未達成

環境
キーワード

7 エネルギーをいかに有効に活用するかに注力

11 省エネルギーを推進

13 気候変動に具体的な対策を

二
酸
化
炭
素
排
出
量

環境目標項目	単位	2018年度	2024年度		差	評価																								
		基準年度	目標	実績																										
LPガスの削減	kg	163,490	125,590	122,990	-2,600	◎																								
2018年2月より、ボイラ燃料を重油からLPガスへ転換した。																														
LPガスの削減 <table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値 (kg)</th><th>目標値 (kg)</th></tr></thead><tbody><tr><td>'18年度(基準)</td><td>163,490</td><td>163,490</td></tr><tr><td>'19年度</td><td>130,000</td><td>160,000</td></tr><tr><td>'20年度</td><td>120,000</td><td>130,000</td></tr><tr><td>'21年度</td><td>135,000</td><td>130,000</td></tr><tr><td>'22年度</td><td>150,000</td><td>140,000</td></tr><tr><td>'23年度</td><td>125,000</td><td>140,000</td></tr><tr><td>'24年度</td><td>122,990</td><td>125,590</td></tr></tbody></table>							年度	実績値 (kg)	目標値 (kg)	'18年度(基準)	163,490	163,490	'19年度	130,000	160,000	'20年度	120,000	130,000	'21年度	135,000	130,000	'22年度	150,000	140,000	'23年度	125,000	140,000	'24年度	122,990	125,590
年度	実績値 (kg)	目標値 (kg)																												
'18年度(基準)	163,490	163,490																												
'19年度	130,000	160,000																												
'20年度	120,000	130,000																												
'21年度	135,000	130,000																												
'22年度	150,000	140,000																												
'23年度	125,000	140,000																												
'24年度	122,990	125,590																												
環境目標項目	単位	2018年度 基準年度	2024年度		差	評価																								
LPガス CO2削減	t-CO2	491	目標 377	実績 369																										
LPG CO2排出量削減 <table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値 (kg-co2)</th><th>目標値 (kg-co2)</th></tr></thead><tbody><tr><td>'18年度(基準)</td><td>491</td><td>491</td></tr><tr><td>'19年度</td><td>400</td><td>480</td></tr><tr><td>'20年度</td><td>380</td><td>400</td></tr><tr><td>'21年度</td><td>400</td><td>400</td></tr><tr><td>'22年度</td><td>450</td><td>450</td></tr><tr><td>'23年度</td><td>400</td><td>450</td></tr><tr><td>'24年度</td><td>369</td><td>377</td></tr></tbody></table>							年度	実績値 (kg-co2)	目標値 (kg-co2)	'18年度(基準)	491	491	'19年度	400	480	'20年度	380	400	'21年度	400	400	'22年度	450	450	'23年度	400	450	'24年度	369	377
年度	実績値 (kg-co2)	目標値 (kg-co2)																												
'18年度(基準)	491	491																												
'19年度	400	480																												
'20年度	380	400																												
'21年度	400	400																												
'22年度	450	450																												
'23年度	400	450																												
'24年度	369	377																												
環境経営計画 2024年		取組結果とその評価			次年度の取組内容 2025年度																									
・ 保温カバーの破損部は交換、付替えを行う。 ・ 設備立上時、稼働時に蒸気漏れを確認する。 ・ 設備稼働停止時にスチームを切る。 ・ 振動接着乾燥機5号、6号の未使用時は乾燥機の電源を切る。		・ 保温カバーの破損部はその都度、交換、付替えを行った。 ・ 日常業務において蒸気漏れ確認が定着し、省エネ意識の向上が図れた。 ・ 設備停止時にスチームを切る。振動接着機未使用時は乾燥機の電源を切ることは遵守された。 ・ 振動接着乾燥機5号、6号の未使用時は乾燥機の電源を切ることは遵守された。			◎ 保温カバーの破損部は交換、付替えを行う。 ◎ 設備立上時、稼働時に蒸気漏れを確認する。 ◎ 設備稼働停止時にスチームを切る。 ◎ 振動接着乾燥機5号、6号の未使用時は乾燥機の電源を切る。																									

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績とその評価、次年度の取組み

評価記号

◎・・・目標達成

△・・・あと少しで目標達成

×・・・目標未達成

環境 キーワード	環境目標項目	単位	2018年度	2024年度		差	評価																								
			基準年度	目標	実績																										
12 つくる責任 つかう責任	産廃（廃油・汚泥の削減）	k g	90,000	77,678	74,200	-3,478	◎																								
一般・産業廃棄物排	産廃(排油・汚泥)の削減 <table border="1"><caption>産廃(排油・汚泥)の削減実績</caption><thead><tr><th>年度</th><th>産廃(廃油・汚泥)排出量 kg 実績値</th><th>産廃(廃油・汚泥)排出量 kg 目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>'18年(基準)</td><td>90,000</td><td>95,000</td></tr><tr><td>'19年度</td><td>80,000</td><td>90,000</td></tr><tr><td>'20年度</td><td>75,000</td><td>80,000</td></tr><tr><td>'21年度</td><td>78,000</td><td>80,000</td></tr><tr><td>'22年度</td><td>78,000</td><td>80,000</td></tr><tr><td>'23年度</td><td>78,000</td><td>85,000</td></tr><tr><td>'24年度</td><td>74,200</td><td>78,000</td></tr></tbody></table>							年度	産廃(廃油・汚泥)排出量 kg 実績値	産廃(廃油・汚泥)排出量 kg 目標値	'18年(基準)	90,000	95,000	'19年度	80,000	90,000	'20年度	75,000	80,000	'21年度	78,000	80,000	'22年度	78,000	80,000	'23年度	78,000	85,000	'24年度	74,200	78,000
	年度	産廃(廃油・汚泥)排出量 kg 実績値	産廃(廃油・汚泥)排出量 kg 目標値																												
'18年(基準)	90,000	95,000																													
'19年度	80,000	90,000																													
'20年度	75,000	80,000																													
'21年度	78,000	80,000																													
'22年度	78,000	80,000																													
'23年度	78,000	85,000																													
'24年度	74,200	78,000																													
環境経営計画 2024年			取組結果とその評価		次年度の取組内容 2025年度																										
・ 手動接着機の半自動化による接着液切れの向上を図る。 ・ 処理液の気化防止による排出量の削減を図る。			・ 手動接着機の半自動化による接着液切れの向上は図れた。 ・ 処理液の気化防止の為、処理液の未使用時は容器に蓋をすることは図れた。		◎ ・ 手動接着機の半自動化による接着液切れの向上を図る。 ◎ ・ 処理液の気化防止による排出量の削減を図る。																										

環境 キーワード	環境目標項目	単位	2018年度	2024年度		差	評価																								
			基準年度	目標	実績																										
12 つくる責任 つかう責任	コピー用紙の削減	枚	110,000	87,000	90,500	+3,500	×																								
一般・産業廃棄物排出	コピー用紙の削減 <table border="1"><caption>コピー用紙の削減実績</caption><thead><tr><th>年度</th><th>コピー用紙使用量 枚 実績値</th><th>コピー用紙使用量 枚 目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>'18年(基準)</td><td>110,000</td><td>105,000</td></tr><tr><td>'19年度</td><td>105,000</td><td>105,000</td></tr><tr><td>'20年度</td><td>98,000</td><td>103,000</td></tr><tr><td>'21年度</td><td>100,000</td><td>103,000</td></tr><tr><td>'22年度</td><td>87,000</td><td>100,000</td></tr><tr><td>'23年度</td><td>88,000</td><td>100,000</td></tr><tr><td>'24年度</td><td>90,500</td><td>88,000</td></tr></tbody></table>							年度	コピー用紙使用量 枚 実績値	コピー用紙使用量 枚 目標値	'18年(基準)	110,000	105,000	'19年度	105,000	105,000	'20年度	98,000	103,000	'21年度	100,000	103,000	'22年度	87,000	100,000	'23年度	88,000	100,000	'24年度	90,500	88,000
	年度	コピー用紙使用量 枚 実績値	コピー用紙使用量 枚 目標値																												
'18年(基準)	110,000	105,000																													
'19年度	105,000	105,000																													
'20年度	98,000	103,000																													
'21年度	100,000	103,000																													
'22年度	87,000	100,000																													
'23年度	88,000	100,000																													
'24年度	90,500	88,000																													
環境経営計画 2024年			取組結果とその評価		次年度の取組内容 2025年度																										
・ 不要コピー、不要プリントの禁止。 ・ 使用枚数の記入による意識付け。 ・ 社内配付は裏紙を使用する。 ・ 両面コピーを活用する。 ・ 会議資料配付の禁止。 （プロジェクト使用、議事録のデータ配付）			・ 不要コピー、不要プリントの禁止は遵守された。 ・ 使用枚数の記入による意識付けは図られた。 ・ 社内配付はA4に関しては裏紙使用が図られたが、A3は用紙が無く新品使用となった。 ・ 標準書類、作業指導票に関しては掲示する為、片面コピーとなった。 ・ プロジェクトの使用が図られ、議事録は電子データで配信された。		◎ ・ 不要コピー、不要プリントの禁止。 ◎ ・ 使用枚数の記入による意識付け。 △ ・ 社内配付は裏紙を使用する。 △ ・ 両面コピーを活用する。 △ ・ 会議資料の配布禁止。 （プロジェクト使用、議事録のデータ配付） ◎ ・ ミスプリントを行わない為にプリント設定を確認する。																										

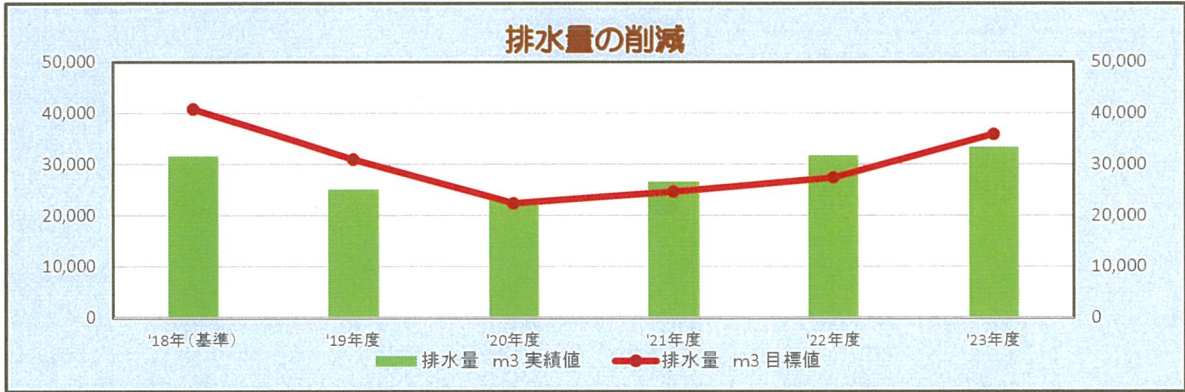
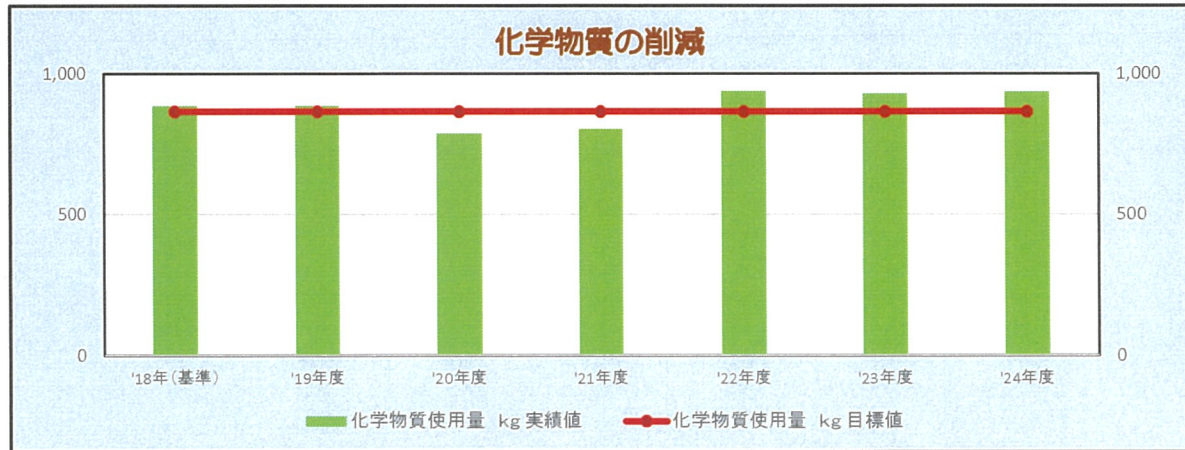
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績とその評価、次年度の取組み

評価記号

◎・・・目標達成

△・・・あと少しで目標達成

×・・・目標未達成

環境 キーワード	環境目標項目	単位	2018年度	2024年度		差	評価																							
			基準年度	目標	実績																									
6 安全な水とトイレを世界中に  14 海の豊かさをまもろう  排水量	排水量の削減	m3	31,688	33,359	30,324	-3,035	◎																							
	排水量の削減  <table><caption>排水量の削減実績 (推定値)</caption><thead><tr><th>年度</th><th>排水量 m3 実績値</th><th>排水量 m3 目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>'18年(基準)</td><td>31,688</td><td>41,000</td></tr><tr><td>'19年度</td><td>25,000</td><td>31,000</td></tr><tr><td>'20年度</td><td>23,000</td><td>23,000</td></tr><tr><td>'21年度</td><td>25,000</td><td>25,000</td></tr><tr><td>'22年度</td><td>32,000</td><td>28,000</td></tr><tr><td>'23年度</td><td>33,324</td><td>36,000</td></tr></tbody></table>							年度	排水量 m3 実績値	排水量 m3 目標値	'18年(基準)	31,688	41,000	'19年度	25,000	31,000	'20年度	23,000	23,000	'21年度	25,000	25,000	'22年度	32,000	28,000	'23年度	33,324	36,000		
年度	排水量 m3 実績値	排水量 m3 目標値																												
'18年(基準)	31,688	41,000																												
'19年度	25,000	31,000																												
'20年度	23,000	23,000																												
'21年度	25,000	25,000																												
'22年度	32,000	28,000																												
'23年度	33,324	36,000																												
環境経営計画 2024年			取組結果とその評価		次年度の取組内容 2025年度																									
・流量を守る。 (日常点検で確認する) ・洗浄室の作業で水を出しっ放しにしない。 ・処理機、水洗、湯洗の清掃時に水を出しっ放しにしない。 ・装置終了後に水バルブの閉め方を使用しなくなった槽から順次しめる。 ・脱脂の水補給を脱脂後の水洗槽から水を補充する。			・日常点検で流量の確認を実施した。 ・洗浄室の作業で水の出しっ放しにしないことは遵守された。 ・処理機、水洗、湯洗の清掃時に水を出しっ放しにしないことは遵守された。 ・水バルブの閉め方を使用しなくなった槽から順次閉めることは順守された。 ・脱脂の水補給を脱脂後の水洗槽から水を取り補充することは順守された。		◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ・流量を守る。 (日常点検で確認する) ・洗浄室の作業で水を出しっ放しにしない。 ・処理機、水洗、湯洗の清掃時に水を出しっ放しにしない。 ・水バルブの閉め方を使用しなくなった槽から順次閉める。 ・脱脂の水補給を脱脂後の水洗槽から水を取り補充する。																									
環境 キーワード	環境目標項目	単位	2018年度	2024年度		差	評価																							
			基準年度	目標	実績																									
3 すべての人に健康と福祉を  11 住み続けられるまちづくりを  化学物質	化学物質の削減	kg	866	866	937	+71	△																							
	化学物質の削減  <table><caption>化学物質の削減実績 (推定値)</caption><thead><tr><th>年度</th><th>化学物質使用量 kg 実績値</th><th>化学物質使用量 kg 目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>'18年(基準)</td><td>866</td><td>900</td></tr><tr><td>'19年度</td><td>866</td><td>900</td></tr><tr><td>'20年度</td><td>800</td><td>900</td></tr><tr><td>'21年度</td><td>800</td><td>900</td></tr><tr><td>'22年度</td><td>900</td><td>900</td></tr><tr><td>'23年度</td><td>900</td><td>900</td></tr><tr><td>'24年度</td><td>937</td><td>900</td></tr></tbody></table>							年度	化学物質使用量 kg 実績値	化学物質使用量 kg 目標値	'18年(基準)	866	900	'19年度	866	900	'20年度	800	900	'21年度	800	900	'22年度	900	900	'23年度	900	900	'24年度	937
年度	化学物質使用量 kg 実績値	化学物質使用量 kg 目標値																												
'18年(基準)	866	900																												
'19年度	866	900																												
'20年度	800	900																												
'21年度	800	900																												
'22年度	900	900																												
'23年度	900	900																												
'24年度	937	900																												
環境経営計画 2024年			取組結果とその評価		次年度の取組内容 2025年度																									
・産廃（廃液・汚泥）の削減項目を展開する。 ◆化学物質の削減活動は生産量の変動に大きく左右される為、当社でのコントロールが難しく維持活動とする。			・産廃（廃液・汚泥）の取組みを展開した。		・産廃（廃液・汚泥）の削減項目を展開する。																									

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価 並びに違反・訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制とその順守状況は次のとおりです。

法 規 名	該当する項目	評 価 内 容	遵守 状況
水質汚濁防止法	表面処理設備	- 排水処理施設稼働。 1回/月の工場排水の水質検査を実施し基準値内を確認した。	○
労働安全衛生法	有機溶剤 特定化学物質	- 局所排気設備稼働。 2回/年の有機溶剤濃度を測定し基準値内を確認した。 - 該当作業者の特殊健康診断を2回/年実施した。	○
消防法	ボイラー・危険物	- 危険物取扱保安監督者選任 - ボイラー取扱技能者選任	○
廃棄物処理法	産業廃棄物 (廃油・表面処理スラッジ)	- 産業廃棄物処理業者と産業廃棄物処理委託契約書の取り交し実施した。 - 産業廃棄物処理に関する許可証受領した。 - 産業廃棄物回収時のマニフェスト発行及び回収確認実施した。 - 産業廃棄物管理票交付等状況報告を県知事に提出した。	○
三隅町との環境 保全に関する協定	工場排水・工場騒音	- 三隅支所へ水質検査結果を1回/年報告実施。 - 工場周辺の騒音測定1回/年実施し基準値内を確認し、結果を三隅支所へ1回/年報告した。	○
化学物質排出把握 管理促進法	第一種指定化学物質 ごとの排出量及び 移動量	- 第一種指定化学物質ごとの排出量及び移動量を1回/月把握した。 - P R T R法に亜鉛の水溶液化合物、キシレン、フェノール、エチルベンゼン、セロソプル、ポリ(オキシエチレン)、ニッケル化合物が該当するが、基準量以下である。	○
特別管理産業 廃棄物管理責任者	特別管理産業廃棄物 管理責任者の設置	特別管理産業廃棄物管理責任者の資格取得者を管理責任者として設置している。	○

評 価

- 1) 環境関連法規制などの遵守状況の定期評価の結果、環境法規制などの逸脱はありませんでした。
- 2) 水質検査を1回/月実施し、すべての項目で基準値をクリアしました。
- 3) 過去3年間にわたって違反や訴訟はありませんでした。

9. 水質汚濁防止法の亜鉛対策

**2011年12月11日以降の亜鉛規制に適合する為、排水処理施設を新設
2011年9月末より稼動を開始した。**

亜鉛濃度排水基準

2mg/L以下

2024年度 亜鉛濃度測定結果
0.1未満～0.5mg/L
基準クリアしている。



緊急事態（薬品漏洩）対応訓練の現地状況



【緊急時対応用具箱の中身の点検】



【保護具着用の実演】



【「グレーチング」の下の排水箇所に土嚢置く】



【薬品漏洩時、大声で周囲の作業者に知らせる訓練】

10. 代表者による全体評価と見直し結果

総括

1. 取組状況の評価

法的要求事項は遵守されており、今後も遵守すること。

2. 目標の達成度

No.	項 目	計 画		単位	実 績	単位	判定
1	電力の削減、 電力 CO2 の削減	電力	1,268,968	kWh	1,313,004	kWh	×
		CO2	663.7	t-CO2	686.7	t-CO2	×
2	L Pガスの削減、 L Pガス CO2 の削減	LPG	125,590	Kg	122,990	Kg	○
		CO2	377.0	t-CO2	369.2	t-CO2	○
3	産廃（廃液・汚泥）の削減	77,678		Kg	74,200	Kg	○
4	コピー用紙の削減	87,000		枚	90,500	枚	×
5	工業用水の削減	33,359		m3	30,324	m3	○
6	化学物質の削減	866		Kg	937	Kg	×
7	製品の原材料の省資源	不良率低減活動を展開する		—	不良率低減活動を展開した	—	○

・ 7 項目の活動に対し 4 項目、目標達成した。

※総二酸化炭素排出量は、2024 年度は 1,058.6 t-CO2（環境への負荷の自己チェックより）

代表者コメント：

- ①目標達成に向けての活動は課員全員で行うこと。
- ②改善アイテムの抽出に課員の協力を得ること。
- ③定期的に朝礼で削減の実績（使用量と金額）と協力を PR すること。

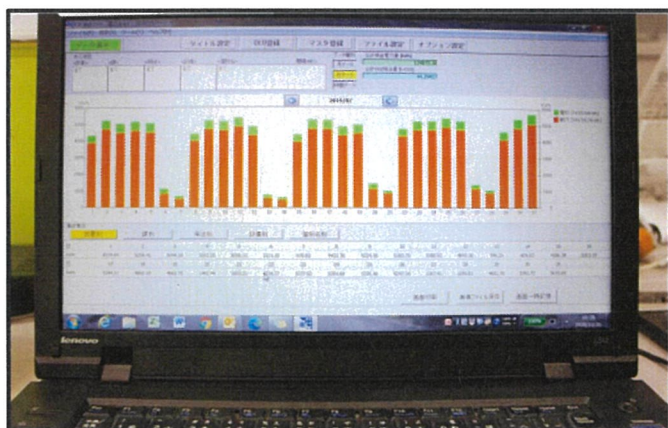
3. システムの各要素

- ・スピード感を持って活動すること。
- ・現在もウクライナ侵攻、パレスチナ侵攻等、世界情勢が不安定な状況の中、日本はエネルギーを輸入に頼っている。円安、輸入価格の高騰、原材料価格の高騰が会社経営に影響を与えることを認識し環境経営活動を展開すること。

11. ケーピーの環境活動

省エネ対策、CO2削減

●電力監視装置（KWウォッチャー）設置

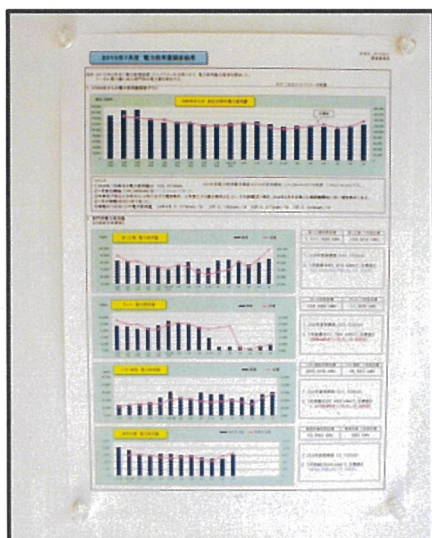


2012年2月に電力監視装置を導入。

電力の見える化により、各部門の電力使用量（配電盤単位）が把握でき、改善を要するラインや装置が明確になり、改善対策に的が絞れた。

また、改善前・改善後の比較も可能となり、担当者も成果を確認でき、更なる改善に意欲が湧いた。

●毎月部門毎の電力使用量を掲示



電力監視装置を活用し、毎月部門毎の電力使用量をグラフ化することにより、月毎の変化や目標値に対し実績が一目で分かる。

また、掲示することにより課員が自部門の電力使用量を知ることにより、更なる節電意欲につながる。

●環境委員会開催

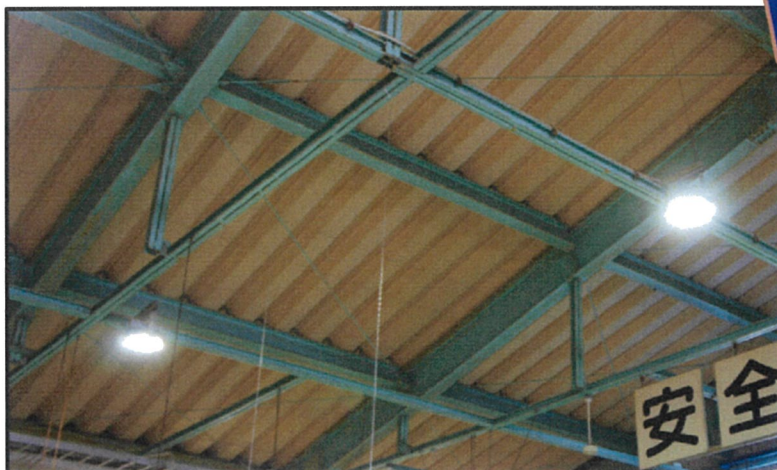
1回/月の頻度で環境委員会を開催し、月毎の取組みや実績を確認している。

また、問題点については対策を検討・実施している。PDCAを回し、スパイラルアップを図っている。



●工場内の照明を水銀灯からLEDに変更

省エネ対策、CO2削減



第1工場

2014年9月～2017年1月にかけて工場内の水銀灯26灯をLEDに変更した。

1日当たり約315kWh→229kWhとなり86kWh削減。

1月(21日稼働)で1,806kWh削減。

第2工場

2012年7月～2013年9月にかけて工場内の水銀灯24灯をLEDに変更した。

1日当たり約262kWh→144kWhとなり118kWh削減。

1月(21日稼働)で2,478kWh削減。

●CO2削減の為、重油からLPガスへ切り替え



CO2排出量を削減する為、
2018年2月よりボイラーの
燃料を重油からLPガスに
切り替えた。

- 室内の温度上昇を抑さえ職場環境改善を図る為、第一工場の屋根に遮熱塗装を行った。



2019年6月、2020年3月
2回に分けて屋根の遮熱塗装
を行った。

地域貢献

毎年3月、ケーピー株式会社正門前の市道約100m範囲の排水溝に溜まった土砂を社員全員で撤去している。



SDGsへの取り組み

2015年 国連サミットでのSDGs(持続可能な開発目標)の採択。
2017年 企業が持続可能な社会の実現を牽引する役割を担う(経団連行動憲章改定)
など国内外でSDGsに関する取組が加速されています。

当社としてもエコアクション21を展開する中、SDGsとの関連を考えながら活動を進めています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

